

古本



和書門			
類	號	函	架
二	八	二	一
冊	一	一	冊



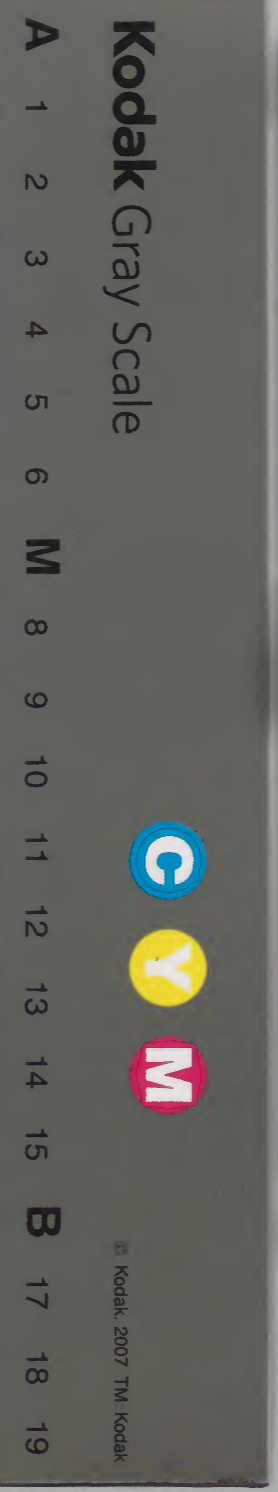
内閣文庫			
類	號	冊	函
二	四	一	一
冊	〇	〇	冊

(口九平)

九十



内閣文庫	
番號	和 28420
冊數	100 (90)
函號	211 300





明治十二年贈



楡尾卷之九十 異本必志里書抜

海道諸駄昼夜鞍刻の合

象の梵語

伯夷太公

篆象の文字梅苑

馬牛の車

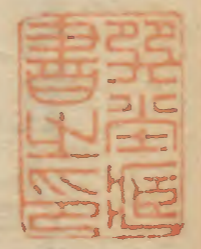
笙

觸徇

閻里圖

菱云生世任友追崇逐月

熱田湊常夜燈銘并序



嶋海者謹銘

元正庶人といへども天也

十月亥日朝廷

信天海といふ鳥

あんき

孟浩然の詩

名字称号

市井圖

謡の盛久

和同開珎の錢



尾州路愛知郡鳴海駅分時鐘銘

繫命皇氏 丕掌範挺 声々合律 韻々以圓

鳴海餞月 蓬島望仙 遐迹共樂 視聽更得

宏基永固 君德万年

正徳二年歲次壬辰秋七月 天野信景謹銘

○象ハ梵語ハ伽耶其雄老牙の長廿六七尺雌老牙

終ハ尺餘ハ少色無カレバ

○元正庶人々々々も土地を移移是分を曆するに

似て亦も義ヲ於て害ヲ与フハ江ノ所出也庶人乾

向て天を敬ハ坤ヲ向て地を敬ハ

按ハ戊亥の方未申の方と云ハるハ悪ハ上ノ云

是涉也

異林山も此種あり農耒操要也を見く勿と

尔文雅社約唐仲仁甫所著也の郷俗元旦始々天地の神牌

を設生果を供して祭ハ有るを曆察

ハ擬ハる香を焼くハ后ハ四時禮を於テ

更ハ物をも陳するハ人皆小於てをく礼も又始

羞ハ人西間ハ生ハ天子を後ハ地ヲ載ラる是我父

母也此彰家ヲ示目也祭ハ是喜天上有て金

礼を其々ハ少於て安カレハ

庶人其以て君子敬するハ有るハ是君を以て侯

て及叩以て其心ヲ示ハるハ以て郡康節云毎日清

晨一炷香謝天謝三光叩天の禮孔子行ひて以て
僭とせしむるは是亦小教神古分の礼を漫するは
おもしろい又儒を才る若し若く名分をのこしはて時情は
度り僭犯をのこし懐ひて教をせらるるにたす人
多し予の知る人無小教をのこすを以て自ら
神祖より終ふは及んば及んば及んば及んば及んば
尤も教をりて程子を儒士也然るも佛を入る
佛僧は賢きをせしむるは書小凡そりて是
ありて教をのこすは及んば及んば及んば及んば
万靈真宰と稱するは及んば及んば及んば及んば
月をまつりて社稷を尊するも僭犯なりと云ふも及んば

天地を尊する禮を小公は及んば及んば及んば及んば
少も及んば及んば及んば及んば及んば及んば及んば
踰の罪を及んば及んば及んば及んば及んば及んば
禮を及んば及んば及んば及んば及んば及んば及んば
料して及んば及んば及んば及んば及んば及んば及んば
招く道也及んば及んば及んば及んば及んば及んば

○元洲補 明宣宗章皇帝語講官曰伯夷太公皆
飯文王及武王伐紂一輔之何講官窮對上
曰伯夷之心在万世太公之心在當時也

○十月亥日船延涉嚴重と供は及んば及んば及んば
及んば及んば及んば及んば及んば及んば

古なきは如何してかく船の字を用ひ其形を以て人
あり乎曰是の字を以て倭俗の假字と云ふはフルと
し言の訓をかりて書しかき也其末を徇レの字は
關市令云皆經本邦云々等法曹並要抄云々の
書より多く見ゆるは經縱横回旋の義也今云ふは
状を古一廻文と云ふ

船状を以て今我官府字を以て改むるは其也

○或人問音先より毎田水糸の妙きを名を以てしと名田
の字を以て名を以て稱する也云々名を以て稱するは
とてし終り也曰終り近衛殿九条殿等云々其法
所の在る地を稱し徳大寺名山院等其家名を以て

三才圖會第五函宮室一に此圖あり按し圖里
小宰の官有るは終り終りを周禮の圖と明の
代の圖と少日考を以て但説文より里系也とあるは
時代より制は遠くも庶人の集むる也圖も
亦我國の町名を以てし終り但唐の圖小吏人を
以てし終り終り終り終り終り終り終り終り終り
棋州大阪の町名大縣を以て終りを法圖
の城下より町名は唐土の圖より商人の立文の
之の形

○市井圖



寺の号を以て稱せし何れ是名田の字なりと傳ふや
 但し名字は伝傳も亦あり山科の字なりと傳ふや
 十月の雜堂言上の文書に曰山科郷云く為當家名
 字之地譜代知行之段勿論也云く之を以て見れば
 山科日野白河岡崎吉田木の如きは名字を以て稱
 せしなりと傳ふは稱せしものなりと傳ふは傳ふや
 在世名字苗氏と申は亦あり也然れども是を氏と
 姓と傳ふは亦あり也田舎武士等も物知能く在世の
 俗事より傳ふは亦あり也此の如きは在世の當者も
 亦ありと傳ふは亦あり也此の如きは亦ありと傳ふ

○ 閭里圖



○ 正一位天滿宮

聖唐北野天神

神君諱道真字三天德日命裔菅原始祖古人
孫參議從三從^位是善心之男也

仁明帝美和十二年降說

清和帝貞觀四年五月補文章生九年為得業

生十二年三月廿三及第十八八年傳從

宇多帝寬平五年二月參議九年六月中納言

升大納言並右近衛大將

醍醐帝昌泰二年二月十四日右大臣從二位

大將如故延喜元年正月廿日一作廿九日遷太宰權

師三年二月廿五日薨于太宰府于時五十九
歲延長元年四月廿一日捨左近宣旨後右大
臣贈正二位朱雀帝天慶五年七月十二日記
西京女文子欲往右近馬場仍私立瑞籬崇之
村上帝天曆元年六月九日移立祠于北野九
年託江島比良社官神祇太輔壬生良種幼子
七歲良種乃往朝日寺談僧最鎮法儀世等祭
之稱天滿大自在天神云々

一條帝正曆四年八月一作北日遣勅使於宰
府安樂寺廟贈從一位左大臣勅使武藏守管
原幹政在躬子神君
曾孫也五年十二月十六日重贈正

一位太政大臣勅使散位管原為理幹正姪
輔正子

北野廟一條院永延元年八月五日始預官幣
正曆二年六月廿四日奉官幣為十九社別廣
田
神社
次之

寛弘二年八月納神島羽院天仁二年二月廿
五日始行御忌

右抄北野縁起公卿補任及旧家秘記畧書之

高辻 五條 東坊城 唐橋 清岡

栗原儒家
也

右六家及武家加賀前田等皆神君之裔也

和同の文字多し其を為財年身も和同の
 言の如し我文を全く天地和同の文字を録せしむ
 此後と程殊りて古き代の如くも和同を録するに和
 同元年戊申よりとて宝永丁亥まで凡一千年来に
 成作の如く彼和泉古今装回の代も傳りて盛衰
 の勢を歴傳するも又文字も其も其も傳りて
 事よ是も大者の事同すかし判りて和同の酒を
 酌傳ふ哉又一經農俚語を綴傳ふ和同開珍の古
 の古淺くも其を白の上下も直々容も示候



和氣長椿春八千
 同文四海太平年

開花山靜記今古

珍重杖頭酷酒錢

和銅の未鑄錢の如く是も代々國法主之四海利源
 通し傳ふ如く此傳りて物守錢の屬も亦も屏を
 招く事かとも是餘相一時蜀山の富も與を百世小錢
 傳るものを囊裏空しく座を生れも物伴長へ小
 悩むらんを然るもかろき天地の法風水一瓢我小
 事足厚き人を何ぞの不逞もせんよとて日右韶光の
 是も人とするも其も惜し傳るも其も其も其も酒小
 飲を添侍り

○ 治承五年三月大中臣能親宣于關東曰正月十

九日号熊野山湛増之徒類臨入伊雜宮鑽破御殿
犯用神宝之間為一祢宜成長神主沙汰奉遷御
体於内宮之處同北六日件輩亦襲末山田守治
兩郷燒失人屋奪取資財訖天照太神鎮坐以
降千百餘歲皇御孫尊垂跡之後六百餘年未有
如此例云々

右東鑑三小見内度會延經曰熊野を以て神歎
と云是より始りて之を私曰亦高を以て皇孫
高と稱して國常立尊と書き皇太中臣氏の傳を
よく有らむと云ふ亦高水三多子月形於於内外宮
湯厨考をの状也

寄進 伊勢皇太神宮御厨一処

在武藏國飯倉云々

是古内宮の考を状也 一祢宜成長
神主を以て

寄進 伊勢太神宮御厨一処

在安房國東條云々 上カヒ
會賀水原古史生倫一節

是外宮への考を状也尚附外宮の字を書せ
此の明者

○ 人壽百歳七十稀 一分衰老一分癡

中心二十餘年事 幾多歡樂幾多悲

此詩の六つを誦す

玉葉集十八子あり
いしけ形 老くよまのぬ盛りしを
あつてけくく終ふくく

玉葉集十八子あり



